

# 令和元年度 杏林大学社会科学学会事業活動報告

運営委員会

本年度、本学会は主として『杏林社会科学研究』第35巻の発行、定例研究会の開催を行った。定例研究会における報告者及び題目は次の通りである。

## 第1回定例研究会

報告者：杏林大学総合政策学部准教授 三浦 秀之

題目：トランプ政権における対中通商政策の決定過程—対中協調派と対中強硬派の相克「関与」か「牽制」か

開催日：令和元年5月15日（水）

## 第2回定例研究会

報告者：杏林大学総合政策学部教授 川村 真理

題目：日本の難民認定制度における保護対象と判断要素

開催日：令和元年7月17日（火）

## 第3回定例研究会

報告者：杏林大学総合政策学部講師 島村 直幸

題目：トランプ政権の対中政策の転換と日本の政策対応

開催日：令和元年11月20日（水）

## 第4回定例研究会

報告者：杏林大学総合政策学部教授 北島 勉

題目：JICA 草の根技術協力「北タイの保健センターにおけるHIV感染者ケアの強化事業」の成果報告

開催日：令和元年12月18日（水）

## 第5回定例研究会

報告者：杏林大学総合政策学部講師 島村 直幸

題目：トランプ政権の政策と2020年大統領選挙の行方

開催日：令和2年2月13日（木）

# 杏林社会科学 研究 第35卷 目次

## 第1号 (令和元年9月30日)

- 国連による電子政府調査と日本の課題 ……………木暮健太郎  
イノベーションプロセスにおける当事者の行為主体性 ……………長谷部弘道  
—— 複数のソニー・ウォークマンの開発ストーリーから ——  
トランプ政権下での対中政策の転換と日本の政策対応 (上) …島村 直幸

## 第2号 (令和元年10月31日)

### <特集>黎明期日澳関係の周辺

- 明治初期における日澳関係をめぐる考察 ……………木暮健太郎  
西園寺公望とオーストリア特命全権公使 ……………半田 英俊  
西園寺公望筆 室孝次郎宛書簡 について ……………松田 和晃  
トランプ政権下での対中政策の転換と日本の政策対応 (下) …島村 直幸

## 第3号 (令和2年2月29日)

- 途上国から先進国に向かう投資と多国間規律形成 ……………三浦 秀之  
成長発達権の公共性と推知報道規制 ……………大西 健司  
—— アイデンティティへの権利による推知報道規制の正当化の一試論 ——  
大村益次郎筆 会計局判事宛書簡 ……………松田 和晃  
脱植民地化と冷戦 (上) ……………島村 直幸

## 第4号 (令和2年3月31日)

- 進化心理学からみたマインドフルネスの現代的意味 ……………岡村 裕  
若者のHIV検査受検の促進と阻害要因に関する文献研究 ……………北島 勉  
脱植民地化と冷戦 (下) ……………島村 直幸